ほぼ週刊コラム　Partnership論　その２３１

***The Pope, the Kings, and the People*の著者William Arthurについて**

20170722 rev.1 齋藤旬

 **主権遷移四態、**というようなことを考え始めた。アイデア段階だがPPTにすると：



で、”The Pope and the People”をググってみると、*The Pope, the Kings, and the People*のkindle版の位置No.4970/13702に正にこの表現が出てくることが分かった。それは：

THE POPE AND THE PEOPLE. I believe that these words are invisibly written on the door of this Vatican Council, which door forms the entrance to a *new world*, rather is it a triumphal arch erected on the rediscovered highway of the human race.

THE POPE AND THE PEOPLE. この言葉は第一ヴァチカン公会議（1869-1870）のドアの上に、目には見えないが書かれていたと私は思う。このドアは、人間界に古くからある直行路の再発見を飾る凱旋門というよりは、a *new world*への入り口となるドア、というものだ。（拙半訳）

つまり、2015年のフランシスコ教皇訪米のキャッチフレーズ“[Pope Francis and the people](http://abcnews.go.com/US/fullpage/pope-francis-people-33178200)”に表される考え方は、その約140年前には議論の俎上に載っていたことになる。

***The Pope, the Kings, and the People*の著者William Arthurについて知りたくなった**。調べていくと英語版Wikipediaには[William Arthur (minister)](https://en.wikipedia.org/wiki/William_Arthur_%28minister%29)があり**William Arthur** (February 3, 1819 – March 21, 1901) was a Wesleyan Methodist minister and author.ということが分かる。

　この「Methodist」というところが気になった。というのは、Methodistは、進歩的イエズス会（カトリック）やルター派（プロテスタント）より、保守的Jansenism（カトリック）やカルバン派（プロテスタント）に近い考え方をするsectであり、Methodist William Arthurがイエズス会に属するPope Francisに近い考え方をした、ということが腑に落ちないからだ。

　更に**William Arthurの主著*The Tongue of Fire*の概評を**[amazon.co.jp](https://www.amazon.co.jp/Tongue-Fire-True-Power-Christianity-ebook/dp/B00T80JINI/ref%3Dsr_1_fkmr0_1?s=english-books&ie=UTF8&qid=1500710022&sr=1-1-fkmr0&keywords=The+Tongue+of+Fire%3A+Or%2C+the+True+Power+of+Christianity)**から拾うと**：

Born in 1819, William Arthur was one of a rising generation of Wesleyan leaders who saw that the Holy Spirit had mightily breathed life into the movement and was now slowly being omitted from Methodist preaching and practice. His *The Tongue of Fire* is, in essence, a manifesto inviting Methodists to recover their birthright as an apostolic movement living in the fullness of the Holy Spirit.

1819生まれWilliam Arthurは当時興隆したWesleyanの主導者の一人であり、生に躍動を力強く吹き込んでいたthe Holy Spiritが、Methodist達の説教や実践から徐々に失せてしまったと感じていた。彼の主著*The Tongue of Fire*（キリストの復活後50日目に使徒達に現れた聖霊）の要点は、Methodistsに生得権としての使徒職に戻ることを思い出させ、the Holy Spiritの内に完全に生きることを促すa manifestoである。（拙半訳）

･･･ということだ。なるほど予定説（predeterminism）を堅く守るMethodist主流と言うよりは、聖霊による個々人の自由意志を尊重するWesleyanとしての色彩が濃い考え方を持つ人なのだとわかり、自由意志を尊重するイエズス会のPope Francisと同じ考え方、即ち「The Pope and the People」に共鳴し得る位置にいたのだと分かった。

　いつの日か、***The Pope, the Kings, and the People***を半訳したいなと思った。

今週は以上。来週も請うご期待。